

# ハイチにおける民主主義の危機と国際社会

青西 靖夫

二〇〇四年二月二十九日のアリスティド大統領の辞任へとつながったハイチ国内の混乱は、今年に始まったものではない。ここ数年のハイチのニュースをあらためて見直してみると、アリスティド派と反アリスティド派の対立が延々と続いていることが見てとれる。

ここでは、二〇〇〇年の選挙前後からのハイチの状況を既存のレポートなどを通じて概観してみる。

## 二〇〇〇年の選挙結果と

### そのもたらしたもの

二〇〇〇年五月に行われた選挙はアリスティド率いる政党ラバラス・ファミリーの圧倒的な勝利で終わった。上院一九議席中の一八議席、下

院の八二議席中七二議席を占め、八〇%の市長選でも勝利したとされる。しかしこの結果には米州機構の選挙監視団をはじめとして国連、EUから疑念が呈されることとなった。不正と指摘されたのは上院議員選挙の集計の問題であり、選挙結果の大勢には影響を及ぼすものではなかった。しかしながらハイチ政府は国際社会からの非難を前に誠意ある対応を見せず、八月一六日、選挙結果を公認するのである。

その後も米州機構は一月二六日に予定されていた大統領選挙に向けて選挙制度の問題を解決するため、ラバラス・ファミリーと反アリスティドの政治勢力の連合体である「民主主義のための集結」との対話を仲介していたが、実ることもなく終わることとなる。こうして反アリスティド派が選挙をボイコットする中でアリスティドは約九二パーセントという高い得票率で圧勝した。しかし選挙には米州機構の選挙監視団が参加することもなく、当初からアリス

ティド政権の正統性に疑念が投げかけられる形となってしまった。

問題となった五月の選挙については、九〇年以降の選挙を見てきた研究者は、少なくとも最もまともに行われた選挙であったと述べている。しかし反アリスティド派は、圧倒的なアリスティド支持の前に、正面から政治参加することを巧みに避けて、アリスティドの勝利を「非正統化」する戦略を取っているのである。選挙の無効のみを要求する反アリスティド派の前には米州機構の仲介も機能しない。

国際機関からの圧力は反アリスティド派に利用されるだけに終わり、対立という出口だけが残されることとなった。

### エスカレートする人権侵害と

#### 暴力の応酬

国際社会の苛立ちは、二〇〇〇年の選挙だけに端を発するものではない。悪化するハイチの人権状況、特

にアリスティドの支持母体であるラバラス・ファミリーあるいはそこに参加する民衆組織による暴力事件の頻発には目に余るものがあった。二〇〇〇年四月の著名なジャーナリスト、ジャン・ドミニク殺害事件もラバラス派の関与が疑われている。テクト・コル農民組織は「ラバラスとマクトが結びついて、免責をこの国に広げている」とも告発している(2001.7.23)。

かつて軍事政権下で弾圧の対象となっていたラバラス支持者は、徐々に姿を変え、反ラバラス、反アリスティドの勢力、そしてメディアを抑圧する側となっていったのである。こうした対立を更に激化させたのは二〇〇一年一月一七日の大統領官邸襲撃事件である。この事件の後、各地で武装したアリスティド支持者が反アリスティド派政治組織への弾圧を繰り返した。

しかしながらラバラス・ファミリーを支持母体とするアリスティド大統領が、こうした暴力を押さえるた

めに積極的に取り組むことはなかった。

またここ数年は警察による反アリスティド派のデモなどに対する弾圧も強まっていた。

### 人権侵害責任者の処罰への取り組みと反発

今回のハイチでの混乱の背景には、

少しづつではあるが進みつつあった過去の人権侵害責任者への処罰という流れへの反発も存在している。既に一九九五年には真相究明会が設立され、九一年のクーデター以降の軍政期に行われた人権侵害事件を調査している。

プレバル政権期の二〇〇〇年八月には一九九九年に一人を殺害した罪で初めて首都の警察長官を含め四名の警察官が裁かれている。また九月には、軍政期の一九九四年にゴナイブで行われた虐殺、ラボトール事件に関する裁判も開始されていた。このラボトール事件で逮捕され、ゴナイブの監獄に収監されていたのがジャン・ピエール・バプティスト(別名ジャン・タトゥーヌ)である。タトゥーヌは軍政期に人権侵害を繰り返した民兵組織FRAPHの中心メンバーであった。

しかしこうした裁判の直後、一月に警察官などによるクーデター計画が発覚した。この事件に関与したとされるのがギ・フィリップである。同時にアリスティド支持者の中からも人権侵害の首謀者として追求されるものが出てくる。アリスティド支持者であるアミオ・メタイエは武装グループである「カニバル軍」を率いて反アリスティド派を弾圧していた。また二〇〇一年の大統領府襲撃事件後の反アリスティド派に対する弾圧の首謀者でもあった。しかし国際社会の圧力もあり、二〇〇二年七月に逮捕され、ゴナイブの刑務所に収監された。

しかし八月に刑務所はメタイエ支持者に襲撃され、メタイエはジャン・タトゥーヌ他約一五〇名の囚人とともに脱走したのである。脱獄後のアミオ・メタイエはジャン・タトゥーヌとともにゴナイブを拠点として反アリスティド運動を展開することとなる。ちなみにメタイエは、脱獄後もゴナイブで公然と生活をしてきたとのであるから、既にこの時点でゴナイブには政府の手が届かなくなっていたのであろう。

そして暴力の応酬がここでも火に油を注ぐこととなる。二〇〇三年九月二二日、アミオ・メタイエが何者かに虐殺されたことから、その兄弟とジャン・タトゥーヌ率いるゴナイブでの反アリスティド運動は更に高まりを見せ、「カニバル軍」は反アリスティドの軍事組織へと転換することとなる。

そして先に述べたギ・フィリップ、また数々の事件で有罪になり、海外に逃亡していた元FRAPHのルイス・ジョデル・チャンブレイもこの流れに合流することとなる。

民主主義の強化、司法制度の強化などを望んでいない勢力が、今回のハイチ危機の背後には隠れているのである。

### 国際社会の退出

ハイチが二〇〇〇年の選挙後、既に民主主義の危機を迎えるなかで、国際社会はハイチに背中を向け始める。一つには選挙プロセスの改善のために前向きな努力を行わなかったハイチ政府への圧力である。まずEUが二〇〇一年一月二九日に援助の凍結を決める。

同時期に国連のミッションもその任期を終えることとなる。国連の平和維持部隊はアリスティド復権から文民警察官の派遣となった二〇〇〇年三月まで継続していた。米州機構と国連による民主主義強化のための文民ミッションMICEIVIHも二〇〇〇年に国連のMICAH(国連文民支援ミッション)に引き継が

れるまで続いていた。しかしながら二〇〇一年二月、人権状況が悪化する中で国連はM I C A Hの継続を見送ってしまった。こうして九三年より続いた国際機関による人権状況のモニタリングは幕を閉じることとなる。この判断が果たして正当なものであったのか、国連の特別人権報告官も再考を促している。

ハイチは混迷を深める中で、国際社会から見放されることとなったのである。

### 終わりに

こうして舞台は整えられ、役者も出そろったこととなった。国際社会から突き放され、援助の停止で国内の不満も高まる中、既に育っていた暴力集団は、反アリストイドを名目に、国内を混乱におとしめる。既に軍隊も解体され、国連の平和維持部隊もないハイチでは、小火器とはいえ武装蜂起に対抗できるものはいない。

そして最後はアリストイドの退陣。誰も口にはしないものの、既に書かれていた筋書き通りであった。同時に九四年の民政復帰後国際社会が取り組んできたハイチの文民警察の強化、民主主義の強化はがらと崩れ去った。

反アリストイド派の政治勢力もこうした武装集団とは距離を置いているとはいえ、今回の武装蜂起の流れを利用したことで、ハイチの民主主義をさらに弱体化させたと言えるだろう。

これまで奴隷制の時代から、米国による侵略、デュバリエ独裁政権、九一年の軍事クーデターと暴力による支配、力による支配が続いてきたこの国で、どうにか積み上げようとしてきた民主主義の経験は砕け散り、再び暴力による支配を許してしまったのである。

国際社会はこの重みをしっかりと受け止めて、ハイチの再建に、いや民主主義国家としての新たな建国の

ために支援していくことを求められている。

- \*1 ここ数年のハイチの政治状況、人権状況などを把握するにはアムネスティ・インターナショナルの資料が参考になる。(\*5、\*6、\*10) ハイチ 2000年8月からの継続的なニュースを読むには [http://haitisupport.gn.apc.org/fea\\_news\\_index.html](http://haitisupport.gn.apc.org/fea_news_index.html) が便利。
- \*2 上院の議席27のうち21が争われた。その後7月、11月に残りが選出されている。下院は83議席であり、残る1議席は11月に確定 <http://www.electionworld.org/election/haiti.htm>
- \*3 STATEMENT OF THE SECRETARY GENERAL OF THE OAS(E-121/00) June 20, 2000 <http://www.oas.org/OASpage/press2002/en/Press98/Press2000/june2000/E121.htm>  
Declaración de Unión Europea(2000.7.12) 1.6.14. <http://europa.eu.int/abc/doc/off/bull/es/200007/p106014.htm>
- \*4 "Not perfect, but improving" 12 juin 2000 Henry F. Carey [http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id\\_article=57](http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id_article=57)
- \*5 HAITI : Steps Forward, Steps Back: human rights 10 years after the coup, 20010927 AI INDEX: AMR 36/010/2001 [http://web.amnesty.org/aidoc/aidoc\\_pdf.nsf/Index/AMR360102001ENGLISH/\\$File/AMR3601001.pdf](http://web.amnesty.org/aidoc/aidoc_pdf.nsf/Index/AMR360102001ENGLISH/$File/AMR3601001.pdf)  
他 Amnesty International Annual Report 2003,2002,2001,2000 のハイチ部分
- \*6 Haiti:Perpetrators of past abuses threaten human rights and the reestablishment of the rule of law  
AI INDEX: AMR 36/013/2 004 (2004.3.3) <http://web.amnesty.org/library/index/ENGAMR360132004>  
SITUATION OF HUMAN RIGHTS IN HAITI ( E/CN.4/2003/116 ) (2002.12.23)国連人権報告官 Mr. Louis Joinet <http://www.unhchr.ch/Huridocda/Huridoca.nsf/TestFrame/3bc53d5477ffc7b6c1256cde004bad2c?Opendocument>
- \*7 A Savior Short onMiracles (2003.10.12) AmyWilentz [http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id\\_article=638](http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id_article=638)  
Monsters and Cannibals at war in Haiti (2003.12.14)Marcus Warren [http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id\\_article=853](http://www.haiti-info.com/imprimer.php3?id_article=853)
- \*8 米州機構の決議 822 はハイチの民主化支援及び 2003年に予定されていた選挙の準備として、大統領府襲撃事件とその後の暴力行為に関わった責任者の処罰を求めている。 <http://www.oas.org/consejo/sp/resoluciones/res822.htm>
- \*9 Adapted by the Council on 29 January 1.6.14 . <http://europa.eu.int/abc/doc/off/bull/en/200101/p106140.htm>  
世銀の援助も止まっているが、アリストイド政権誕生前から議会が成立していないことなどから融資が承認されないということもある。
- \*10 Haiti: Human rights challenges facing the new government(19/04/2001 AMR 36/002/2001) <http://web.amnesty.org/library/Index/ENGAMR360022001?open&of=ENG-HTI>  
アムネスティ・インターナショナルはこの決定を強く非難しているが、今回の事件を受けてこの判断の正しさをあらためて感じさせられる
- \*11 \* 6にて記載した国連人権報告官の報告書 P16